

2学期の『学び』に期待して

勝見 藤一

2学期スタートの始業式において、私から生徒の皆さんにお話した要旨は下記の通りですので、ご承知いただき、保護者や地域の皆様におかれましては、これからもご支援ご協力をお願いいたします。

2学期の最初として、リオデジャネイロオリンピックの日本選手の活躍もすごかったですが、その金メダル以上の発見が6月に日本の科学の世界であったので、その話をさせていただきます。

それは、アジアで初めての元素の発見で、原子番号113番の新元素Nh「ニホニウム」の発見です。

元素とは、私たちの体や身の回りの、すべての物は、水素や炭素、鉄など、物質の基本的な要素である元素が組み合わさってできています。

現在までに、人類の長い歴史の中でも、118種類しか見つかっていません。日本の理化学研究所が30年がかりで、加速器を使って、原子番号30番の亜鉛を、原子番号83番のビスマスにぶつけて核融合させる方法で、新元素Nh「ニホニウム」3個の合成に成功しました。でもこの新元素Nh「ニホニウム」は、わずか500分の1秒で崩壊してしまい、実用面では役に立ちません。

では、なぜ科学者たちは、こんなにも30年も掛かって元素の発見に取り組むのでしょうか。

それは、地球上の自然界で見つかっているのは、92番のウランまでですが、宇宙では、もっとより多くの重い元素があるとされています。そこで、新元素の発見を通して宇宙誕生や星の誕生の解明につながる研究として、世界中の科学者たちは元素の基礎的研究に努力しているのです。

例えば、原子番号77番のIr「イリジウム」です。

この原子番号77番のIr「イリジウム」が、約6600万年前の恐竜絶滅解明のヒントになっています。それは、なぜでしょう。恐竜は、この地球上で約2億5200万年前～約6600万年前まで、2億年近く生息した大型動物です。しかし、約6600万年前に、突如として、この地球上から忽然と姿を消してしまいました。それが、長年の研究者たちの謎でしたが、原子番号77番のIr「イリジウム」が、その解明に役立ったのです。

この原子番号77番のIr「イリジウム」は、地球上では希少金属で、地球上の表面では、ほぼ発見されません。しかし、宇宙から飛来した流星物質には、高濃度のIr「イリジウム」が含まれることが分かっています。

そこで、科学者たちは、恐竜が絶滅した地球上の約6600万年前の地層を調査し、高濃度のイリジウムが含まれている地層を数多く発見しました。

そのことから、今から約6600万年前に、メキシコのユカタン半島に、直径10キロメートル～15キロメートルの天体が衝突をし、地球にマグニチュード11クラスの巨大地震と、高さ100Mにも及ぶ巨大津波や、地球上を流星物質の塵が覆ったために引き起こされた、大規模な気候変動により恐竜が絶滅したと考えられています。



今日は、多面的、多角的に物事を考えられるように理科と社会科を合わせたようなお話をしましたが、3年生の皆さんは、知っていると思いますが、昨年度から高校入試が大きく変わり、多面的、多角的に思考する問題が多く出題されるようになりました。ぜひ、皆さんもこれからの2学期の学習で、なぜ？ どうして？ と深く考え、興味を持って学び続けていただければと思います。

信頼される学校に

御代田中学校では、教職員御代田中学校の職員一丸となって、交通安全の誓いを全員が行い、スクール・セクハラ防止、体罰防止等の研修を通して、互いの意識を高めて、お口の電話番号も生徒・保護者に知らせています。

子どもたちが明るく楽しく笑顔を過ごし、信頼される学校づくりを推進し、ご理解・ご協力をお願いいたします。

御代田中学校校便り

あさまやま

平成28年度
第三号



2016
9月16日

9月の主な行事

23・24日 雪窓祭
30日 佐久地区
教研集会

10月の主な行事

4日 中間テスト
5日 〃
20日 教育課程



【2学期始業式】

美しく
雄大な
浅間山に学ぶ